

令和4年度事業報告書		事業所名	デイサービスセンターしおかぜ城山	作成者	榊原 翔	作成日	R5.3.31
目標	本年テーマ	(計画)「できないからできるに変わる」→認知症予防・介護サービスに特化した人づくり (評価)コグニサイズ等の認知症予防メニューを取り入れ、職員が実践できるように勉強会を開催し、認知症予防プログラムを実践できる人づくりを行うことができ、新たな顧客獲得につながった。					
基本処遇及び運営	■令和4年度処遇及び運営方針に対する評価						
	(計画)①「受容と共感」を持った姿勢・言葉遣いの実践						
	②積極的な業務改善・業務効率化						
	③認知症予防プログラムの実践・認知症ケアの知識習得						
	(評価)						
	①利用者様・職員間との関りの中で相手の言葉をまず聞く姿勢や否定的な言動に留意し対応するように指導し少しずつではありますが、職員の言葉遣いが柔らかくなってきたり、物事を前向きにとらえることや否定的な言動が少なくなってきました。						
	しかしその反面、職員との関りの中で意見が衝突する場面もあり、その時に感情的になる場面があり、相手のことをまず受け入れる姿勢が職員一人一人に必要なことは今後の課題であると感じた。						
	②業務改善委員会にて業務マニュアルの策定や帳票管理の環境整備、物品の棚卸を積極的に行った結果、作業効率が向上した。						
	③コグニサイズ等のプログラムを実践できる職員作りや知識習得の為の教育訓練・研修会に積極的にいき、プログラム化することに繋がった。						
	研修・セミナー	■職員研修計画と実績					
		研修名称	参加実績	研修名称	参加実績		
		令和4年度 甲種防火管理新規講習	1名(西原)	令和4年度 認知症介護基礎研修	1名(竹内)		
		令和4年度 岡山県地域包括支援センター職員等資質向上強化研修	1名(藪内)				
		令和4年度 初任者重点テーマ強化研修	1名(佐伯)				
		令和4年度 コグニサイズ実践者研修会	1名(合田)				
		令和4年度 認知症介護実践者研修	1名(寺崎)				
		令和4年度 安全運転管理者講習会	1名(西原)				
会議・委員会・内部研修	■会議・委員会計画実績・効果						
		会議委員会名	実績・効果	会議委員会名	実績・効果		
		事業部会議	定例2ヶ月に1回実施。収支状況・各委員会の議題検討・事業計画の進捗状況確認を行った。				
		給食委員会	毎月1回実施。業務委託業者と献立の検証・厨房環境の検討を行った。				
		事故予防検討委員会	事業部会議内にて実施。事故内容の再確認・検証・予防処置の検討。				
		身体拘束防止委員会	事業部会議内にて実施。定例の内部研修会を企画し実施。				
		感染症委員会	事業部会議内にて実施。コロナ感染症対策・マニュアル等を整備した。				
		業務改善委員会	毎月1回実施。施設内の業務改善を行った。				

■災害訓練計画・実績				
防災・災害	訓練予定月	実施月	訓練目的	訓練評価
	令和4年9月	令和4年9月	避難訓練・消火訓練・模擬通報訓練	地震・火災を想定した避難誘導手順の確認を行った。又、ハザードマップを使用し、各災害時の被害想定を利用者様に確認していただき危機意識を持っていただいた。
	令和5年3月	令和5年3月	避難訓練・消火訓練・模擬通報訓練	事業所内の消火器の設置場所・避難口の確認・避難誘導灯の場所の確認を利用者様・職員と行い、災害時の誘導手順の確認を行った。

■月別行事(下段)・内部研修報告(上段)	
月度	
4月	高齢者虐待及び権利擁護 KYT訓練 月行事:花見会 創作活動:こいのぼりの置物作り
5月	月行事:しおかぜ運動会 創作活動:藍染ハンカチ作り
6月	事故発生時・緊急時対応 創作活動:紫陽花の壁掛け作り
7月	月行事:昼食会(うどん作り) 創作活動:朝顔の壁掛け作り
8月	認知症ケア 月行事:そうめん流し 創作活動:ミニうちわ作り
9月	月行事:敬老会 創作活動:ストラップ作り
10月	第1回コグニサイズ実践(座学・実技) 月行事:しおかぜ秋祭り 創作活動:梟の置物作り
11月	創作活動:クリスマスリース作り
12月	感染症発生時・予防対策(座学・実技) 月行事:忘年会 創作活動:正月飾り作り
1月	月行事:新年会 創作活動:節分飾り
2月	第2回コグニサイズ実践(座学・実技) 腰痛予防体操(座学・実技) 月行事:節分会 創作活動:雛飾り
3月	月行事:おやつ作り(雛菓子) 創作活動:小物入れ作り

(総評)
 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、感染予防対策を講じながらの営業ではあったが、事業計画に基づき概ね計画通り実行した。今年度は、認知症予防プログラムを新たに取り入れること、実践できる職員の育成を大きなテーマとし、内外教育訓練の開催や認知症予防プログラムを実践し、ご利用者様にサービス提供を行うことができた。従前よりデイ城山は「入浴」「食事」に特化した営業活動を行っていたが、今年度より認知症ケア・認知症予防プログラムに特化した通所事業所としてスタートできた年度であった。新たな取り組みを行うにあたり、職員への理解や環境整備、役割の細分化が必要なこともあり、各セクションの担当者が検討を重ね、サービス導入を行う際に職員一人一人が主体的に取り組めたことについては、とても良かった点であった。
 数値目標については、月間平均利用者数30名を目標としていたが、新型コロナウイルス感染者の発生により当初予定していた営業日数を下回ったこと、営業再開後の利用者数減少、施設入所者の増大により計画していた数値に届かない結果となった。しかし、新規の利用者数については、昨年度より上回っており、居宅介護支援事業所様・地域包括支援センター様より多数紹介があり、当年度の活動内容(認知症ケア・認知症予防プログラム)にある一定のご理解をいただいた結果、新規利用者様の紹介に繋がった点は良かったと感じた。